

観光客動態調査報告書 概要版

(調査名) 小樽市観光客動態調査

(目的) 小樽市を訪れる観光客の動態や小樽に対する意向、消費金額の変化などを調査し、今後の観光施策推進のための基礎資料とすることを目的とする。

(調査方法) 市内7地区に区分し、調査員が直接観光客から内容を聞き取る方式。ただし、宿泊施設については、アンケート用紙を留め置きによる。

(調査地区) 祝津地区、運河地区、天狗山地区、堺町地区、小樽駅周辺地区、築港地区、朝里川温泉地区の7地区

(調査日程) 春季 平成25年 5月 3日 ～ 5月 6日
夏季 " 8月 8日 ～ 8月11日
秋季 " 10月17日 ～ 10月20日
冬季 平成26年 3月 6日 ～ 3月 9日

(調査員) 小樽おもてなしボランティアの会

(有効アンケート回答人数) 4,743人
うち面接 4,057人
留置 686人

平成27年3月

小樽市産業港湾部観光振興室

【性別・年齢構成】

- 性別は、男性が44.4%、女性が55.6%、全体の年齢構成では、20代が22.7%と最も多く、次いで40代が19.2%、30代が19.0%となった。

【居住地構成】

- 居住地構成は、道内客が38.9%、道外客が61.1%となった。
- 道内客の圏域別内訳は、札幌が51.6%、札幌を除く道央地域が26.9%で、道央圏全体で約8割を占め、道外客の地方別内訳は、関東地方が約5割と最も多い結果となった。

【来樽回数】

- 来樽回数では、道内客は「4回以上」が73.4%、リピーター率は93.2%となった。また、道外客でも半数以上が2回以上来樽しているリピーターとなった。外国人は、72.8%が「はじめて」という結果になった。

【同行者】

- 同行者では、道内客は「家族・親戚」の43.3%、道外客は「夫婦・カップル」の32.2%、外国人は「友人」の31.1%が最も多い回答となった。

【旅行形態】

- 旅行形態では、道内客は「個人旅行」の82.1%が圧倒的に多かった。道外客は「個人旅行」の57.1%が最も多く、次いで「フリープラン」の32.2%、「パッケージ旅行」の4.5%となった。外国人は、「個人旅行」の91.1%と圧倒的に多かった。

【来樽目的】

- 来樽目的は、道内客、道外客ともに「食べ物」が最も多く約3割を占めた。外国人は「運河と歴史的建造物」の27.9%が最も多い回答となった。
- はじめての来訪では「小樽運河と歴史的景観」の30.1%が最も多く、次いで「食べ物」の29.1%、「ガラス・オルゴール」の16.5%となった。しかし、来訪回数を重ねるに従い、「運河と歴史的景観」、「ガラス・オルゴール」の割合が減少している。

【来樽動機】

- 来樽動機では、道内客は「以前に来た時の体験・感想」の32.8%、道外客は「ガイドブック・パンフレット・ポスター」の42.2%、外国人は「インターネット・ホームページ」の34.2%が最も多い回答となった。平成20年度調査と比べると、「ガイドブック・パンフレット」の割合が、道内客は11.8ポイント、道外客は30.2ポイント増加、「インターネット・ホームページ」の割合が、道内客は11.0ポイント、道外客は13.1ポイント増加となった。

【観光ゾーン】

- 市内を7つの観光ゾーンに分けた訪問比率は、道内客は「運河（浅草橋街園）周辺地区」の29.3%と最も多く、次いで「小樽駅周辺地区」の20.6%、「祝津・オタモイ地区」の17.2%となった。道外客は「運河（浅草橋街園）周辺地区」の37.8%、「小樽駅周辺地区」の27.1%、「堺町周辺地区」の17.8%の順となった。外国人は「運河（浅草橋街園）周辺地区」の29.8%、「小樽駅周辺地区」の21.0%、「堺町周辺地区」の13.8%の順となった。
- 観光ゾーンの訪問比率をみると、市中心部より離れた地区は道内客が多く、市中心部は道外客が多い結果となった。また、「築港周辺地区」、「天狗山地区」、「朝里川温泉地区」は、道内客・道外客よりも外国人の訪問割合が高い結果となった。
- 訪問回数別比率では、はじめての訪問では、市中心部の比率が高いが、訪問回数を重ねるに従い、比率が減少する傾向にある。

【小樽訪問前後の立寄り観光地】

- 小樽訪問前後の立寄り状況をみると、道内客は、訪問前後ともに約8割が立寄り観光地がなかった。道外客は、訪問前が約7割立寄った観光地があり、訪問後は約5割が立寄る観光地があった。外国人は、訪問前後ともに約7割が立寄り観光地があるという結果になった。小樽訪問前後の立寄り観光地では「札幌」が最も多く、道内客は約5割、道外客は約6割、外国人は約5割を占めている。

【来樽時の利用交通機関】

- 来樽時の利用交通機関では、道内客は「自家用車・バイク」の59.9%、道外客は「JR」の59.5%、外国人は「JR」の88.9%が最も多い回答となった。

【市内での利用交通機関】

- 市内での利用交通機関では、「徒歩」が最も多い回答となり、道内客は36.4%、道外客は48.5%、外国人は56.8%となった。

【小樽での宿泊】

- 小樽での宿泊した割合をみると、道内客は31.2%、道外客は38.2%、外国人は、28.0%となった。平成20年度調査と比べると、道内客は6.8ポイント増加、道外客は6.7ポイント増加となった。
- 季節別道内外・外国人別に宿泊した割合をみると、「道内の冬季」の45.8%が最も多く、次いで「外国人の冬季」の42.3%、「道外の秋季」の41.7%となった。

【小樽での滞在時間（日帰り客）】

- 日帰り客の滞在時間は、全体で4.9時間となった。
- 外国人の7.2時間が最も長く、次いで道内客の5.2時間、道外客の4.6時間となっており、平成20年度調査と比べて、道内客は0.5時間、道外客は0.4時間増加となった。
- はじめての来訪は4.8時間であるが、4回目以上は5.1時間となった。

【小樽の夜の観光】

- 市内で宿泊した観光客の夜の観光では、道内客は「飲食店・居酒屋など」の29.3%、道外客は「運河散策」の30.5%、外国人は「運河散策」の36.1%が最も多い回答となった。

【土産品】

- 購入した土産品では、道内客は「菓子類」の28.9%、道外客は「ガラス工芸品」の31.6%、外国人は「ガラス工芸品」の28.4%が最も多い回答となった。
- はじめての訪問は「ガラス工芸品」の30.9%と最も多く、次いで「菓子類」の26.3%、「海産物・珍味・加工品」の15.6%となった。これらの比率は、訪問回数を重ねるに従い「菓子類」、「海産物・珍味・加工品」、「地酒・ワイン・ビール」が増加している。

【一人当たりの平均観光消費金額】

- 一人当たりの平均観光消費金額は、市内で宿泊しない場合は16,342円、市内で宿泊した場合は37,657円となり、平成20年度調査と比べると、市内で宿泊しない場合は5,386円の増、市内で宿泊した場合は8,273円の増となっている。

【電子マネー利用の有無】（新規調査項目）

- 電子マネー利用状況は、外国人の利用率が15.7%と最も多く、次いで道外客の13.1%、道内客の6.1%となった。

【再訪の意思】

- 小樽への再訪意思は、「来たい」と回答したのが、約9割を占める結果となった。

【満足度】

- 小樽への満足度は、「非常に満足」と「やや満足」をあわせると約9割以上が満足と回答している。

【年間観光総消費額】

- 平成25年度における年間観光総消費額は、1,255億円と推計された。これは、平成22年度市民経済計算結果における市内産出額6,527億円の19.2%を占める結果となった。

※ 平均消費額及び年間観光総消費額の推移

	観光客一人当たり 平均消費額(円)	年間観光総消費額 (億円)
平成25年度	18,355	1,255
平成20年度	12,740	839
平成15～16年度	18,308	1,319
平成12年度	17,272	1,351
平成11年度	17,872	1,592
平成7年度	10,840	455
平成5年度	12,276	475
平成2年度	6,987	166